第９回　第５分科会会議録（概要）		場　所	新宿区役所　第一分庁舎 ７階研修室
日　時	平成 17 年 10 月 24 日 午後 7 時 00 分～午後 9 時 10 分	記録者	【学生補助員】 籏野、久保田
		責任者	区事務局（松浦、池田）

会議出席者：２８名
（区民委員：　２１名　学識委員：１名　区職員：６名　）

■配布資料
① 第８回会議録
② 11・12 月の日程のお知らせ
③ 歩きたくなるまち新宿（新宿区まちづくりグランドデザイン）
④ 新宿区都市マスタープラン（新宿区民会議用資料）
⑤ 歩きたくなるまち新宿説明資料
⑥ 新宿区都市マスタープラン説明資料
⑦ 多摩地区の市との財政構造比較
⑧ 産業を基軸とした観光ルートにおける観光関連調査報告書（資料編省略）
⑨ Ｂさん資料２種類

■進行内容
１　はじめに
２　新宿区グランドデザイン・都市マスタープランについて
３　産業を基軸とした観光ルートにおける観光関連調査報告書について
４　質疑・意見交換
５　区民委員による話し
　「神楽坂について」「オーケストラの活動について」
６　質疑・意見交換
７　まとめ
８　事務連絡

■会議内容
【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員

１．はじめに

○：　配付資料の確認（９点）
　　本日の進め方について

最初に区より、新宿区都市マスタープラン、新宿区グランドデザイン及び産業を基軸とした観光ルートにおける観光関連調査報告書について、全体的な説明をさせていただきます。そこで、一度、質疑・意見交換を行います。次に、区民委員のＡさん、Ｂさんにお話しいただき、再度、質疑・意見交換をさせていただきます。最後に先生にまとめをお願いします。本日は内容が盛りだくさんで、時間があまりありませんが、よろしくお願いします。

また、質疑・意見交換のところでどなたかに司会をやっていただきたいのですが。いらっしゃらないようなら、こちらから指名させていただきます。（指名→了承を得る）それでは、質疑・意見交換のところで司会をやっていただきますので、よろしくお願いします。

２．歩きたくなるまち新宿・都市マスタープランについて

○：　新宿区都市計画部まちづくり計画担当副参事からご説明します。

○：　最初に新宿区都市マスタープランについて簡単に説明させていただきます。都市マスタープランは平成４年の都市計画法の改正によって策定が市町村に義務付けられたものです。正式名称は、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」といいます。割と最近の新しいものだとご理解いただければと思います。実物はこちらになりまして、平成８年に作られたものです。何回か印刷しましたが、在庫がなくなりましたので、区民会議用に新たに職員が印刷したものを今回お配りさせていただいています。

都市マスタープランは、個々の都市計画について定めたものではなく、都市計画をつくるための基になるもの、共通認識を持つためのものだとご理解いただきたいと思います。今まで日本のまちづくりは、正直に言って、都市計画決定した道路が出来ないとか、区画整理でも、ようやく今ごろ出来るとか、なかなかまちづくりが進んでいないという現状にあります。なぜ、進まないのかと言うと、今までの都市計画は、上から決めていて、国、東京都、新宿区と降りてきて住民にお願いする、住民は自分たちで決めたものではないので、反対するという不毛の構図が生まれていました。そういう問題点を解決するために出来たのが都市マスタープランだということをご理解ください。

具体的には、区市町村が作るというのが位置づけになっております。都市計画法第７条に「整備、開発又は保全の方針」があり、都道府県レベルのマスタープランだったのですが、これでは身近な住民の方に根付かないということで、平成４年に都市マスタープランが出来たわけです。それに基づき、新宿区は平成８年に新宿区都市マスタープランを作りました。以前は、「整備・開発又は保全の方針」だったのですが、開発も保全も両方必要であるという意味で「整備・開発及び保全の方針」と

なっています。それから、新宿区基本構想、新宿区基本計画、新宿区実施計画という大きな流れもあります。この流れもひとつある。総務省の構図です。こちらの都市マスタープランは、ハード系、国土交通省の流れのマスタープランです。このように国の縦割りが現実的にここでも現れている形になります。しかし、新宿区都市マスタープランは、新宿基本構想及び都の整備、開発及び保全の方針に則っています。この都市マスタープランの下に、ハード系としてみどりの基本計画、住宅マスタープランなどの「個別計画」が位置づけられています。また、都市マスタープランは基本計画に位置づけられ、実施計画に位置づけられて、個別の事業に結びつきます。大きな位置づけがあります。そして、「個別都市計画」ならびに「開発プロジェクト」は新宿区都市マスタープランに則っていないといけないという法律上の位置づけになっています。現在、新宿区で高度地区ということで絶対高さの導入が話題になっています。これまでは制度的に絶対高度の導入は難しかったのですが、中高層、低中層の市街地も都市マスタープランに位置づけられていますので、それが基礎になって、今の高度地区に絶対高さを導入するということが今、計画として進められているところです。ですから、なかなか現実の生活とは遠いようにみえますが、実はこの都市マスタープランは現実の暮らしに結びついているということをご理解いただければと思います。

次に、内容について説明します。枠組みとしては、「新宿区の将来像」として将来都市像と都市構造を位置づける、その下に、「部門別まちづくり方針と地域別整備方針」、そして「まちづくりの実現方策」、この３つのかたまりで構成されています。

新宿区のイメージは、外から見ると、３０万人の人が住んでいると思われてなく、業務都市に見られています。新宿区の都市マスタープランでは、業務都市だけではなく、暮らしもあるという面も含めて、「生活都市＝新宿」を将来都市像として位置づけました。この都市マスタープランをつくっている時期が丁度バブルの崩壊期ぐらいで、定住人口がどんどん減っており、住居系の用途地域に業務系がどんどん侵食してくる。そのため、「生活都市」を強く打ち出しています。生活都市はどういうものかというと、「開かれた都市」、「魅力ある都市」、「快適な都市」の３つで構成されています。生活都市新宿として、現状がこうだというのではなく、これからこうしたいという大きな位置づけです。

新宿区としての将来都市構造という図面を作成しました。この図面には２つの複層多元的な都市構造、というのが特徴となります。すなわち、鳥の目で見た新宿と虫の目、歩く人の目線から見た新宿の２つの新宿区があると都市構造でいっております。ひとつは、オール東京もしかしたら全日本から見た新宿区の位置づけ、新宿駅周辺の新都心、東口周辺の商業の中心や西口周辺の業務の中心で構成されています。それから、いままでの都心部と結ぶ通り、広域業務商業軸といった新宿通り、靖国通り、外堀通り、甲州街道といった大きな都市構造があります。これは鳥の目で見

た都市構造です。実際の新宿区は、出張所ぐらいの単位とする食住遊の地域生活ゾーンがあり、地域ごとに生活の中心、暮らしの基にした人の目線から見たもうひとつの新宿区があります。例えば、生活の中心として、高田馬場、牛込柳町、神楽坂などがあり、地下鉄で結ばれ、その線に沿って公共施設が配置されているといった構造になっています。歩くということを中心にした都市構造があります。歩いて数百Ｍすると公共施設があるような地域が新宿区にはいくつかあると位置づけをとらえたものが都市構造だと認識しております。

ここからは簡単に説明していきます。土地利用の方針に関しても、新都心から少し離れると第一種低層住居専用地域（高さ 10m くらい）があり、新宿区は中高層とかあまり高いところはないという構造になっています。交通整備に関しても、幹線道路はもう出来上がっているので、今あるものを基礎として地域の中に通過交通が入ってこないような、交通セルという考え方を取り入れていく形をとっております。

みどり・公園整備の方針では、「つ」の字の新宿を取り巻く大きな外周路を構成するような緑と水のネットワークがあるということを位置づけています。都市アメニティでは景観や福祉のまちづくりなども位置づけています。これは今後よく取り上げられる方針のように思われます。実際の都市構造は地域に基づくということですが、地域別整備方針もこれに位置づけられております。例えば、大久保あたりですと、「都市生活を楽しめるゆとりあるまち」を実現するために、地域でのサービス拠点を育成する、低中層住宅地を中心とする都市型住宅地の転換を進めることが方針となっています。最後に、まちづくりの実現方策を位置づけさせていただきました。

これらのプランを実現するにあたり、問題点もありまして、今後の検討が必要になってきます。このような区民会議という場で総合的なまちづくりであったり、参加のまちづくりであったりと少しずつ説明することによって、少しずつ実現に向けて動いていくのかなと思います。

こういった形で平成８年に都市マスタープランがつくられたわけですが、これからのまちづくりをもっと魅力あるものにするにはどうしたらよいかということで「まちづくり懇談会」というのが平成１５年１２月頃から区長を中心に、学識経験者にもお集まりいただきまして、検討してきました。その成果が、今年６月にまとまりました「歩きたくなるまち新宿」です。これは新宿区まちづくり懇談会の報告書であると同時に新宿区グランドデザインという位置づけになっております。法定計画ではなく、これからのまちづくりの素材として皆様に活用していただきたいと思います。特に商業、賑わいに焦点を充てて取り上げております。グランドデザインでは、ソフトの面とハードの面、両方を融合させた新しいまちづくりの提案という形を担っております。

グランドデザインは、３つのコンセプトを打ち出しています。それを実現するために区、区民の方々がどうすればいいかということで４つの仕組み、それから具体的

な実現に向けての５つの取り組みがあります。
これから少子高齢化社会が言われており、それが現実のものになってきています。将来的には区民の３人に１人が高齢者です。人口減少時代のまちづくりは非常に難しいものです。そういったものに対する一つの考え方のキーワードとして「持続可能な都市」と考えています。今までのまちが再開発とか、大きな建物をつくるように進んできましたが、駅前に何も高層ビルがある必要もなく、公園があってもいいわけです。人口減少をプラスに捉えながら、新しいまちづくりに取り組めないか、ということがこの基本的な考え方になっています。
皆さんご存知のように、新宿区は「近代文学発祥の地」「日本の教育文化を先導する拠点」「先端的な大衆文化の拠点」であります。実は、夏目漱石が新宿区で生まれて人生の大半を過ごしたことに対して、新宿区はあまり宣伝していません。小泉八雲も松江に住んでいたのは有名ですがほんの短い間です。新宿区には亡くなるまでずっと長い間住んでいました。そういうことで、これだけ大きな資源があっても、実はあまり活用されていないというのが新宿区の現状です。大衆文化という意味でいうと、花園神社で演劇が行われていた。また、紀伊国屋ホールやそのほか小劇場がたくさんあります。新宿区は大衆文化の拠点でした。これからこういうものも活用できるのかなと思います。産業という面でも、新宿区は一兆三千億円を超える売り上げ日本一の商業集積地があります。世界有数のビジターズ産業のまちです。また、ＩＴ産業の拠点でもありますし、高田馬場の手塚プロダクションで有名ですがアニメ映像産業発祥の地でもあります。染色のまち、印刷業のまちとしても有名ですね。具体的に、これからの新宿区をつくるコンセプトとして、「賑わい・交流のあるまち」、「芸術文化・創造のまち」、「安全安心・潤いのまち」をグランドデザインとして示しています。特に、「芸術文化・創造のまち」は新しく位置づけられたものです。具体的には、アニメとかはサブカルチャーといわれていたものが、これから大きなもの、中心的なものになってくると考えています。創造のまちは、いろいろな人が活躍できるような舞台にふさわしいまちであり、活力にあふれているまちとして、これからの新しいまちのあり方として捉えています。
仕組みについても、「協働と参画」という意味でも、地区協議会の話しですとか、ＢＩＤ的な仕組みを取り入れても良いと思いますし、「まちをつくるインセンティブが働く仕組み」を考えるにあたっても、都区財政調整という地方交付税のミニ版、東京都版みたいなものが行われているのですが、区民の税金が区に使われるような仕組みができるように検討していかなければならないと思います。
５つの取り組みとしては、「歌舞伎町からの再生」、「水と緑のネットワーク」、「減災社会への取り組み」、「景観行政団体としてのまちづくり」、「賑わいの産業づくり」がシンボル的なものとして掲げられています。
歌舞伎町にしろ、ＢＩＤ的なものの研究は必要だと思いますし、回遊できる新都心

として道路や公開空地の活用のようなことが大事だと思います。水と緑のネットワークに関しても、区民を巻き込んだ運動として玉川上水の復活を現在検討させていただいております。また、ソウルでは、川の上を通っていた高速道路を地下化して、川が復活しており、現実としては難しいですが、神田川上の高速道路を将来的には地下化することも考えられるのではないかということも位置づけさせております。歴史文化に関しても、歴史・文化・産業のデータベース化、発信、ならびに文化観光施策と産業施策、まちづくりの連携についても検討する必要があるだろうと思います。賑わいの産業づくりについては、ビジターズ産業の活性化するために、「サイン整備による快適に移動できるまち」、「オンリー新宿の魅力づくり」、「新宿観光コンベンション協会創設の検討」を位置づけております。創造型産業の振興に関しても「芸術文化を創造型産業として位置づけ」、「伝統産業と現代アートとの連携」もこれから検討していく必要があると思います。私からは以上です。

○：　ありがとうございました。後ほど質疑、意見交換を行いますのでよろしくお願いします。ここで補足です。都区財政調整制度について「多摩地区の市との財政構造比較」という資料をご覧ください。前回、廣江先生が、「区内の産業活動が活発になって区内の事業活動の収益がいくら上がっても、新宿区の収入には直接関係がないという構造がある」とおっしゃいました。そのことについて少し説明してほしいということでしたので、簡単に説明させていただきます。新宿区を含めた２３区のすべてが、一般の市町村とは税財政の仕組みが異なっています。資料は、新宿区の歳入の内訳と多摩地区で人口が新宿区と同規模のＡ市の歳入を表しています。特別区民税と市町村民税は、名前が違いますが同じものを表しています。Ａ市の場合は、市町村民税（法人分）、固定資産税、特別土地保有税が歳入として入っていますが、２３区の場合は、直接、区の歳入として入ってこず、東京都が徴収して、区に一定額が交付金として入ってきます。これが、新宿区でいうところの特別区財政調整交付金となって入ってくるわけです。よって、法人税がいくら入ってきても、２３区の比率に応じてそれぞれに分配されるので、直接、新宿区の収入に結びつかないということになります。それから、Ａ市のところに、事業所税と都市計画税があります。これも東京都の徴収になりまして、２３区には直接入ってきません。このような税の仕組みによって、産業活動が活発になっても新宿区の収入に直接結びつかないという話になってくるわけです。この資料は先にお配りしたデータ集の３９ページに掲載してあります。カラーで掲載してあり、見やすいかと思われますのでご覧下さい。

○：　それでは商工観光課から観光関連調査についてご説明いたします。

３．観光関連調査について

○：　お手元の資料に基づいて説明させていただきます。「産業を基軸とした観光ルートにおける観光関連調査報告書（資料編省略）」です。資料編省略というのは、調査項目の集計を省略させていただいたということです。必要な方は、交流の場にも資料がございますし、新宿区のＨＰにも「産業・観光」というところでＰＤＦとして掲載してあります。もしよろしければそこから取っていただければと思います。どうしても紙ベースとして欲しい場合にはご連絡いただければ、用意いたします。

５ページの調査範囲とエリア構成をご覧ください。東京都は、平成１５年３月に産業を基軸とした観光ルートの開発調査ということで１６の観光ルートを設定しました。新宿区は、大江戸線ルート沿線の「神楽坂」「中井・落合」「新宿駅周辺」の観光スポットを選定し、産業を基軸とした観光ルートの整備支援事業を始めました。調査内容として、エリアごとに住民の方、事業所の方、来街者の方に観光についての意識調査・現状分析を行いました。今後の新宿区の観光施策について参考にしていくのが調査の目的になります。実施方法は、立教大学と観光施策における協定書を結んだことに基づいて、立教大学観光研究所に調査委託をお願いしました。平成１６年７月から１１月にかけて、３エリアで、調査票を配布、回収を行いました。今回の調査票を参考までに資料の最後の方に添付いたしました。主な調査項目として、「観光資源に対する認識度、推薦度」「設問以外の観光資源」「来街者の受け入れ体制に対する意向」「その他地域ブランド志向」などについてです。回収率は、アンケートに対するインセンティブが無かったため１４．２％と悪いように思われます。

それでは、来街者の視点に立って分析を紹介します。１８ページをお願いします。来街目的です。神楽坂エリアでは、食事と散策が最も高い比率を占め、飲食店と町並みが最大の魅力になっています。中井・落合エリアでは、イベントが３９．６％を占め、そのほとんどが「染のまち落合スタンプラリー」への参加者となっています。調査時期がたまたまスタンプラリーの時期と重なったので多少偏った数値になっているかもしれません。新宿駅周辺エリアでは、観光というよりも通常の生活といいますか買い物と食事を合わせて８３．３％と高い比率になっています。ショッピングとグルメを中心とする代表的な都市観光のパターンを示しています。

続いて２０ページの来街者の満足度です。神楽坂エリアと中井・落合エリアでは、「非常に満足」と「やや満足」を合わせたプラス評価がそれぞれ５５．４％と８１．１％で、全体の半数以上を占め、エリアの観光資源の特性と目的的な来街を反映していると考えられます。対照的に、新宿駅周辺エリアでは、「普通」が半数強の

５２．０％を示しているが、この結果は、新宿駅周辺エリアの観光資源の一般化傾向（日常生活の中で頻繁に利用されていること）の強さが影響しているものと考えられます。
続いて２３ページです。観光資源認識度と推薦度になります。各エリアで観光資源いわゆる名所、旧跡などを取り上げ、住民と事業所には「知っているところ」及び「来街者に推薦したいところ」の２項目を、来街者には「知っているところ」及び「訪問したところ」の２項目を尋ねることで、三者の「観光資源認識度」を調査しました。２３、２４、２６、２７ページに各エリアの結果がありますが、神楽坂・中井エリアについては住民の方に比べて来街者の方の認識度が低いことが挙げられます。逆に新宿駅周辺は、都庁、新宿御苑、花園神社などは、住民と事業所が割と高いポイントを示していますが、一方、歌舞伎町については、来街者は新宿駅東口・西口周辺の家電量販店の次に推薦していることもあり、来街者と地元の方との認識のずれが伺えます。
続いて２８ページの来街者の受け入れ態勢です。３エリアについて、整備が「望ましいもの」と「最も重要なもの」について調査しました。それぞれ「望ましいもの」に関しては複数回答、「最も重要なもの」については単一の回答を求めています。若干の異同はあるものの、地域別、住民・事業所・来街者を問わず必要とされる上位項目は「案内パンフレット」、「案内表示」、「案内図」の情報提供に関わる項目が上位を占め、次に「トイレ」と「休憩所」の環境整備項目がみられます。「最も重要なもの」はいずれの調査でも「案内パンフレット」「案内表示」などの情報提供に関わる項目が多く目立ちました。これから区としては、情報提供の部分を重要と考え、効果的な情報提供の手段を講じていく必要があると考えております。
３９ページ以降にまとめとして、３エリアについて、課題が示されています。現状、区としてどのようなことを行っているかを説明します。神楽坂については、来街者のイメージに沿った複数の周遊ルートの形成、さらにはその情報発信が課題となろうとあります。アンケートの自由記述にあった「町並み」、「イベント」、「飲食店」、「季節のこと」など設問以外に回答がありました。これらを含めた周遊ルートと情報提供が必要ではないかということです。実際、神楽坂まつりでは、地場産業の染色協議会の協力を得まして、ゆかたでコンシェルジェを実施しました。ゆかたを着て、まちあるきを行うものです。また、情報提供としては、毘沙門天の外壁沿いに地域のイベント、祭りなどを知らせるための掲示板を設置し、情報提供をしていこうと考えております。中井・落合エリアですが、観光客誘致の方向性は、染の里二葉苑、新宿ミニ博物館に代表される伝統産業を基盤とした、文化的産業観光であろう。こうした産業観光型施設を中心に、同じく多数の文学作品が生み出された地として根強い集客力を持つ林芙美子記念館を含めた従来型

スポットを組み合わせてルート形成することが現実的な方策であろうとあります。これにつきましては、産業を基軸とした観光ルートにおける整備支援事業として、名所・旧跡を中心としたルートをつくり、パンフレットにまとめて、今年度末には発行したいと考えております。また、文学関係については、来年３月に新宿中央公園にて、大江戸線ＰＲイベントが開催されるわけですが、地域のコミュニティの方が目白の文化村の文学資料を収集しており、これらについても情報発信していきたいと思います。新宿駅周辺エリアの今後の課題ですが、新宿駅周辺エリア全体の連携をより高めていく方策を探り出し、実現していくことであります。西口高層ビル街の商業施設は集客力の面では多少の地盤沈下が心配されている。この対策は当該エリアばかりでなく、隣接する新宿中央公園の活性化と関連してなされるべきであろう。新宿中央公園が本来の公園としての機能を取り戻し、またイベントの場として活用され集客が見込めるようになれば、西口高層ビル街の流動も大きく変化していくものと考えられるとあります。これにつきましては、平成１７年６月に新宿駅西口の地域関係者を招いてご意見を伺ったところ、新宿駅を降りたところで、案内板がなく、自分がどこにいるのかよくわからないという意見もありました。それらを含めて、まだ新宿駅周辺について、地域の調査が済んでいない状況にあります。再度、東口西口を併せた地域の方のご意見を伺い、今後のエリア整備の方針を決めていこうと考えております。今年度は、新宿中央公園を中心とした大江戸線ＰＲイベントを開催し、また、エリアのパンフレットを発行するなど情報提供していきたいと考えております。以上で説明を終わります。

４．質疑・意見交換

○：　ここで、マスタープラン、グランドデザイン、観光関連調査の説明について、質疑・意見交換・感想等を皆様からお聞きしたいと思います。
司会の方よろしくお願いします。

司会：ご指名がありましたので司会をやらせていただきます。
お二人の説明について、ご意見のある方はいますか

●：　先ほど、水とみどりのまちだとか歩きたくなるまちとかありましたが、具体的にどういう形で入ってきたらいいのかなと思っております。たとえば、車社会といわれる中、人だけが通る道をもう少しつくっていけたらどうかと思います。家の近くの路地、ある程度の道を登校時間など一定期間や時間に車が入れないようにできないか。子どもはいろいろな遊びをするので、公園だけでなく、道を利用した空間があればいいと思います。そういう観点からすると、通りというものを見直してもらい、人が通る通りと車の通る通りを区分してもらいたい。道の利用に

ついて区のお考えはあればお聞かせ下さい。

○：　道路の利用のあり方は非常に大事な考え方だと思います。都市マスタープランの中でも、新宿駅周辺についてモール化ということを位置づけており、甲州街道、明治通り、靖国通り、新宿駅周辺などで囲まれたエリアについては歩行者中心のまちにしていこうとしています。それから、地域で子どもが安心して遊べるという道路のお考えについても、地域の方も車を利用されている場合があるので難しいのですが、地域の方と合意ができれば、今は警察も理解してご協力いただており、少しずつではあるがそういった取り組みが現実には動いています。地域の公園の少ないところで、道路を通行止めにして、道路で安全に子どもが遊べるという例があります。地域の中で地域の合意をとることによって、道路の利用のあり方をコミュニティのための道路と位置づけていけば、可能であると思います。現実的には、車を使う地域の方との合意形成が一番大切だと考えております。

司会：ありがとうございました。ほかにありますか。

●：　主に３点お聞きしたいことがあります。１点目は、マスタープランでも、観光調査でも、落合・中井地域についても、偏りのある話しになっているのではないかと思います。目白通りに住んでいますが、落合の中でも山手通りから東側については場違いになっていると思います。マスタープランについても、そのエリアから離れていると、観光の施策まで離れてしまうのではないかとそこに住んでいる人間からみてちょっといただけない気持ちになってしまいます。

２点目として、大江戸線をもとにした中井・落合地域の観光について、調査し、施策を立てられたということですが、この施策は今まであれこれ言われたとおりのことしか出ていないような偏りがあるという印象がします。例えば、文化村と林芙美子記念館だけです。落合の東側にいけば、観光文化施設は沢山あります。また、いろいろな文化人のゆかりの地であるのに、非常に偏りがあることについて、不満を感じます。

３点目として、都市計画課で最近、地域バスの計画をしているということで、アンケート調査がありましたが、この調査は落合全域をカバーした形になっています。マスタープランから外れたところで、関係ないという風に見えて不満を感じます。

○：　地域に偏りがあるのではとのご質問ですが、時間の関係上、省略させていただいたところもございます。目白通りについては都市マスタープラン本編の１７０ページに「路線型商業の観光整備を進める」というのがございます。地域の中でもきちんと記述はさせていただいております。文化人に関しましても、いろいろご提案いただければと思います。地域バスについては、コミュニティバスということで、現在、可能性について検討を進めている段階であります。

○：　観光のことで説明させていただきます。落合・中井地域で、大江戸線でいいます

と今回、中井駅しか載っていないのですが、もうひとつ落合南長崎駅というのがございます。４１ページの自由記述に、ホビーセンターがあります。ミニＳＬというか機関車のモデルをつくっている赤い電車が目立つ施設があります。職場の人によると、子どもを連れてよく遊びに行った。特に大江戸線が通ってから、駅が近くになって非常に利用しやすくなったと聞いています。このような、今回、調査によって知った場所が観光コースになりうるのかなと考えています。文学関係についても、新宿区はどこにいっても、明治、大正、昭和と文学のゆかりのある場所がございます。落合コミュニティあれこれと地域で頑張っている方々がいます。その方々が集めた文学関係の資料を整理し、来年３月の新宿中央公園のイベントで、皆さんに見ていただけるのではと考えています。以上です。

●：　とりあえず、あとお一人の方だけ、伺いたいと思います。それ以降の方は、あとでまた質疑意見交換の時間をとりたいと思います。

●：　新宿区における夏目漱石の評価が低いと思います。漱石山房を再建するという話しがあり、榎町の人が計画をしていると聞いています。あの場所は、観光の面からも非常によいのではないかと思います。漱石公園の中に銅像があり、そのあたりを整備するようですが、区では何か情報をもっていますか

○：　漱石は非常に郷土に誇りをもっている印象を与えます。そういった意味でも漱石のことをもっと発信していくべきだということですが、ようやく少しずつ実を結んでいる段階です。現在、漱石公園の改修作業が始まったところです。地域の方々と一緒に取り組もうということで、意見を取り入れながら進めております。こういったものをどんどん進めて、発信していくことは一番大切かなと感じています。

●：　とりあえず、ここで一度、区切りたいと思います。あとで、また質疑の時間を取りますので、それまでに考えていただければと思います。

○：　次にＡさんから、観光に関連して、神楽坂での活動についてお話しいただきます。

５．区民委員による話し

●：　Ａさん（神楽坂について）

今日、時間をいただき、３０分という時間はかなり長い時間ですので、人前でご説明するのには相当事前に準備が必要ですし、失礼にならないようにと思っていたのですが、零細企業を経営しておりましてなかなか時間がなくてすみません。とりあえず与えられた時間を有効に使いたいと思います。私は神楽坂の近くの早稲田鶴巻町で生まれまして、戦後すぐ一家で神楽坂に移住しまして、神楽坂の坂下の、今は地下鉄のＢ３出口のところの神楽坂の商店街に面したところで育ち、今もそこが実家ですので、ほぼ半世紀以上神楽坂で過ごしております。私の場合は祖母の時代か

ら神楽坂の商店をずっと経営していまして、父は数年前に死んだので私が今そこの商店主で商店街にも入っております。学校を出て、出版社に就職しまして編集の仕事をずっと長くやってきて、早期退社をして、最近は神楽坂で地域雑誌を作ったり、商店経営をしたりしているので、純粋に神楽坂にすべての時間を関ってきたというわけではありませんが、ずっと神楽坂に実家があって、父親も家族もそこに住んでいましたので、そういう意味では非常に近しい形で神楽坂に接しておりましたし、ちょうど７年前に会社をやめて神楽坂で仕事をしておりまして、なおかつ地域雑誌をやっておりますと、神楽坂について、少し人様よりもいろいろなものが知識として入ってきますし、また実感としても持ってきたという事でお話させて頂きます。私はちょうど学校を出て、出版社の編集をやっている時に、市川に住んでいました時に、河川改修の計画にぶつかりまして、私が大好きだった川の緑の土手とその並木が全部切られるという改修計画があったので反対運動を起こしたんです。たった一人で始めたのですが、結果的には会ができて、その会を通して、建設省（当時）と千葉県と市川市に対して、河川改修について考え直してほしいと訴えまして、結果的には４００本の並木のうち２００本は残りまして、あと河川改修が終わった段階で、工事は条例でいろいろと制約がありましたが、一応復元ができまして、一部でも緑が復活したという事で、そういう経験の中で今でも川と水にはまだこだわっております。そういう経験をしてきた中で、ちょうどその頃、それからしばらくして、職場が九段の北に移りまして、仕事が終わると九段の北の４丁目のところから飯田橋に向かって帰り、土手をずっと歩いていると私がかつてずっと遊んでいた外堀と土手公園というのが思い出としてよみがえてきました。私は坂下なので、坂上の路地というよりも外堀と土手公園に関わっていこうと思いまして、神楽坂のまちづくりの会に自分から飛び込んでいったわけです。そこで、当時「ここは牛込、神楽坂」という雑誌を作っていた編集者の女性と知り合って、自分がその雑誌を愛読していた事もあって、ちょうどその女性が４年前に亡くなり、「ここは牛込、神楽坂」が廃刊になってしまいまして、私はそれを非常に惜しんでおりましたので、形を変えてタイトルを変えて連続してはいませんが今編集して３ヶ月に一回「神楽坂のまちの手帖」という雑誌を出しているわけです。以上がまず簡単なバックグラウンドでした。

それから、神楽坂というまちがどういうまちかといいますと、本来ならスライドなりビデオなり用意したかったのですが間に合わなくて、簡単に言いますと私にとって神楽坂は、やはり坂下のお堀なのですね。飯田橋の西口を下りますと、完全にあれだけの空と水辺が展開する都心のまちというのは、そうざらにはないと思います。御茶ノ水は神田川、水道橋も駅を出てすぐ川があり、市ヶ谷にもホームからお堀は見えますので、それなりにあちこちにあるのかもしれませんが、私にとって牛込堀、飯田堀というのは舟が入ってきた時代にそこで遊んでいたという事で、今でもそこ

は懐かしい思い出とその景観は私の心の中に生きているのです。ここの写真にありますように、ちょうどこの辺りが飯田橋の駅ビルです。２０階建ての駅ビルがあって、これは東京理科大です。神楽坂一丁目にあります。お堀の土手の下に降りたところから撮ったもので、こういうアングルで撮ったものはなかなかないと思うのですが、かなり水面の広がりがあって本当にすばらしいです。これは横になりますが、同じ位置から撮ったものです。それから、ちょっと見にくいかと思いますが、法政大の前あたりからお堀を通して市ヶ谷をのぞいたものです。これはちょうどこの駅ビルが建ったときに飯田堀は埋め立てられたのです。反対運動もずいぶんあったようで、私の友人が関わっておりました。今はこうして駅ビルができたわけですが、その下に牛込堀の水がその地下の水路を通して、神田川にいくわけです。それがひとつはずっとそのまま浅草橋にいって隅田川に合流して、もう一つは水道橋にいって、直角に折れて日本橋川となって日本橋の下をくぐって隅田川に行くという２つの流れがあるわけです。ついでにいうとその神田川というのは吉祥寺の井の頭池と妙正寺池と善福寺池が水源です。その３つの主な水源を通して隅田川の下流で合流する約２５キロの水なのです。しかし、今、そこは惨めに高速道路が空をふさいでおりまして、地元でもなんとか高速道路をはずしてくれないかという本当にささやかな声がありまして、一方、日本橋ではかなりその声が世論になりつつありまして、ソウルのチョンゲチョンの話もありますし、そろそろ具体的な動きになるかなと、それでも２０年くらいはかかるかもしれませんが、そういうことがこの周辺の水辺であります。私にとって、入口の外堀、神楽河岸は非常に近しいひとつの資産として、今でも考えております。

今、「観光文化」というＪＴＢの雑誌に頼まれて路地を書いてくれと頼まれたのに、ついつい外堀の話をしてしまった。私にとってまず外堀ということがございます。さらに神楽坂には「坂」があります。約７００メートルの非常に短い坂ですけれども、その間に一丁目から六丁目まであります。夏には、阿波踊りがあり、真ん中に毘沙門天があります。一番外れは赤城神社でこれは非常に良い神社です。ちょうど背骨のように神楽坂通りがありまして、その左右に横丁が複雑に入り組んでおります。最近は車が入らないまちが非常に人気という事で、時々ＴＶで神楽坂が取り上げられ、この間も多摩の生涯学習センターの方から１２０人程見学したいという事でまちの人間何人かで案内したのですが、観光バスが停められる駐車場がないということで散々探して、反対側の法政大の裏に停めさせていただきました。路地は狭いので８班に分けてご案内したのですが、私はまわりに駐車場がないことはとても良いことだなと思っています。実はこのさっきの飯田橋堀の隣の牛込堀が、駅ビルができた次に全部埋め立てて駐車場にしようという動きがあったのです。私は当時、地元にはあまり関わらず通過するぐらいでしたけれど、結果的にはバブルがはじけてその話はなくなって、あれがもし駐車場になっていたら、神楽坂の入口の魅力は

大打撃で、路地や坂はあるのでしょうが、今のような魅力のあるまちにはならなかったと思うので、良かったと思います。今後も車が入りにくいのがずっと続いていってほしいと私は思います。大きな駐車場がないために、最近、観光化し始めましたけれど、大勢の人間が入りにくいということでどちらかというと整然とした、秩序ある観光化ができるかなと思います。いずれにしても坂のまちですので、周辺には江戸時代から名前は残っている坂があるのですね。それは約３０あります。神楽坂と平行して、軽子坂とか、牛込領の跡地だった地蔵坂とか、ゆれい坂などいっぱい坂がありまして、坂の話をし始めますと時間がかかるので、省略しますが、坂の魅力というのは結構ありまして、よく引用する言葉ですけれども、永井荷風が「坂というのは平地におきた波乱である」と言っています。確かに坂下と坂上というのは全く景観が違いますし､ずっと坂を歩いていると思わぬ景観の展開がありまして、坂というのは非常に魅力があります。かつて陣内秀信さんが言っていたように「昔は坂のある商店街は繁盛しない」というほど坂は買い物に不便でしたが、坂に少しずつ人気がでてくると、路地が多くて不便だとか、坂があって疲れるだとか、車が入らないのが逆に最近は良い条件になってきたように思うのです。やっと神楽坂が人々に認識されるようになってきたのは、時代が一回りして今まで見てこなかったものが人々に関心を持たれるようになったのかなという気がします。神楽坂のまちは外堀があるということと坂が多いというだけでなくて、商店街も整然としています。新宿の駅前はテナント化して、ビルオーナーはそこにいない場合が多いのですが、神楽坂は小さいビルが乱立していて、商店を下でやっていて、上で住んでいる場合が多いので、テナントに変なものを入れたくないという意識が働いて、秩序ある雰囲気のある商店街を維持しているのではないかと思います。そうは言っても時代の流れでナショナルチェーンは入ってきており、神楽坂らしさは少しずつ後退していく気もしますが、そういう新しい変化をどう良好な方向に持っていくかが課題であって、変化を嫌だと言ってもきりがないと思っています。

それから、東京理科大、法政大、いろいろな専門学校などの大きな学校があり、学生が特に坂下の活気を作ってくれています。また、地下鉄４社が入っていてターミナル化していることもあり、ビジネス人口がどんどん増え、また、大型マンションの増加に伴って居住者人口も増えてきて、それがいい意味でも悪い意味でもあるのですが、居住人口が増えてきて、来街者が増えてきて、単一化していない層が複雑に入り組んでいます。学生層、ビジネス層、居住者層、観光客という比較的いい形になっているなと思います。

また、神楽坂は花柳界といわれますが、上の方は寺町でもあり３０くらい寺院があります。神楽坂は火事で全部丸焼けになり、鉄筋の寺がほとんどですが、歴史ある寺が多くて、その寺の宝物などを訪ねることもおもしろい観光資源だと思います。私は今はあまりやっていませんが、知り合いの学芸員の方と一緒に来春くらいに神

楽坂の寺巡りをやろうかと話しています。
それから花柳界ですね。そういった歴史があるということで、文学作家や芸術家がたくさん集まってきて、まちのいろいろな記録を残してくれているということが神楽坂にとって非常に幸運だと思っています。私たちがまちを歩いているときに、そこに描かれた風景や残された文章、短歌があることで、そのまちを歩くことが本当に豊かになると思います。非常に神楽坂は恵まれていると思います。夏目漱石もよく来てましたし、それ以上に一番大きな存在はたぶん尾崎紅葉だと思います。彼の終焉の地でもありますが、神楽坂は何もしていないのでもったいない気がします。
また、坪内逍遥、早稲田派の文学者の影響で演劇が非常に盛んでした。神楽坂の坂上は特に、いろんな文学、演劇の足跡があってとても豊かであると思います。
あとは結論にもういかないといけない時間なので、簡単に触れますと、神楽坂の場合は今、アイランド化、島化していると思います。神楽坂の一丁目から六丁目、いわゆるお饅頭でいうとあんこの部分だけ残っていると思います。まわりが非常に巨大化しております。坂上では大型のマンション、坂下では理科大の高層ビルの計画、千代田区側でも４０階建てのビルが建設予定、隣接している文京区にも不動産会社が入っていて大きな計画があります。そうすると八方を巨大な超高層建築に囲まれて、その中に神楽坂は島のようにぷかぷか浮いているという状況が近々来るのではないかと思います。そうなると、今残されている路地や水辺などが今よりもっともっと貴重になると思います。それを残すためには建築基準法などいろいろなことがありますので、住民の手だけでは残せないと思いますが、時代は本当に追い風になっていると思っています。ぜひ新宿区の観光でも後押しを頂けると大変ありがたいと思っています。
最後に、あと一点だけ。これが「うを徳」という料亭で、尾崎紅葉や泉鏡花が遊びに来ていたところです。それからこういう黒塀の細い路地があります。こんな風に神楽坂は特徴のあるまちでして、火事があったので「うを徳」も含めて、すべて戦後の建物ですが、なかなか雰囲気があって良いなと思っております。非常に雑駁な話になりましたがありがとうございました。以上です。

○：　どうもありがとうございました。本日は大きなテーマが「観光」ということで、Ａさんにお話しを頂きました。また、ご意見ご感想は後ほどお願いします。この後、Ｂさんからオーケストラの活動をご紹介頂きたいと思います。お願いします。お配りしたパンフレット２点をご覧になりながらお聞き下さい。

●：　Ｂさん（オーケストラの活動について）
皆様こんばんは。私は１０分ほどお時間を頂いておりますので、簡単にオーケストラについてお話しをさせて頂きます。今回、私はこの第５分科会にご縁がありまして参加させて頂いておりまして、営業目的ではございません。まず、音楽、オーケ

ストラについてお話しさせて頂きたいと思います。まず、西洋音楽というのは日本に１８７３年に取り入れられまして、約１３０年くらいですけれども、当時の日本の文化庁の役人がアメリカに渡って音楽を取り入れたのが発端ということで私は勉強して参りました。西洋音楽といってもいろいろございますけれども、その中でもオーケストラというのがございまして、先週、参加して頂いた方には都内のプロのオーケストラは８つあるとご案内申し上げましたが､今日はさらに拡大致しまして、今皆様にご案内申し上げておりますけれども、実は私たちは１９１１年に日本で始めてできたオーケストラですけれども、その後、現在、北から南まで現在、２３のプロのオーケストラが活動しております。活動と致しましては、まず芸術面をご案内するコンサートとして定期演奏会とか、モーツァルトやベートーヴェンをずっと後世に伝えていかなければならないお役目ありますので演奏会をしております。また、それ以外にも青少年のための演奏会ですとか、私どもは１７０人弱のオーケストラで、年間３００公演くらいほぼ毎日演奏会を行っておりまして、オペラとシンフォニー、あとバレエなど演奏しております。一応、私はご縁ありまして、オーケストラのご案内ということで、現在、東京フィルに所属しており、お手元に資料を配らせて頂いているわけですけれども、演奏会の中には、堅苦しいと言われている定期演奏会の他に、団塊の世代を狙ったにシネマ音楽館、生のオーケストラで演奏した映画音楽を体感してもらうコンサートを企画しています。また、今年で１６年を迎えましたが、黒柳徹子さんが毎年終戦記念日に行っているハートフルコンサートなどもあり、演奏会を楽しめて、平和に今日を迎えられて良かったねという意味も込めまして行っています。また、年末の第九演奏会を４公演行っております。プロのオーケストラ以外にも、アマチュアのオーケストラ、教会などでも行っています。第九以外にはメサイアがよく演奏会で行われております。また、以前この第５分科会で図書館のお話しも伺っておりますが、私どもは場所があれば演奏をさせていただけるわけです。実は４年前、教育プログラムという形で、初めて私どもの指揮者が演奏会を行って、当時は子供達が喜ぶファミリーコンサートというコンセプトで行われていたのですが、２年前からは学校をまわって、学校の体育館で演奏させて頂いて、生のオーケストラの演奏はどんなんだろう、楽器はどんな形をしているのだろうということを身近に感じてもらい、また、演奏会の前に、実際にプロが使っている楽器に触れてもらったりして、楽器と遊ぼうというワークショップを行ったりしています。そういう場所を通してクラシック音楽をもっと身近に体感して頂けるような仕組みを今後、作っていきたいなと思っていますし、この第５分科会に参加させて頂いた事をきっかけに、１０年後２０年後の新宿区がどうなっているのかと考えたときに、音楽が流れているまちだったらいいな、というところで、それで犯罪が少なくなったらいいなということで、私は個人的にそういう希望を抱いております。ですので、このご縁を通じて、何かそういう活動がこういうところで

もできるんですよ、こういうところで演奏してくれませんかというのがありましたら私の方にご相談いただけましたらと思います。また、資料をご覧頂いている方にはおわかりかと思いますが、先日、ある区民委員が、新宿区だけでなく、周りの地域との連携も必要だとおっしゃられたのですが、実は今年の夏に、代々木公園の一角で金管五重奏の演奏会を開いて、音楽をもっと身近に感じて頂けるように活動を始めました。地域の方々、渋谷区の方々に協力頂きまして、公園にやぐらを組んで行ったところ、子供たちがはしゃぎながら、でも音楽は真剣に聞いているというすごく貴重な経験をさせて頂きました。これが新宿区でも実現できて、ニューヨークフィルのように毎年ニューヨークのセントラルパークで演奏できる、芝生に寝転がりながらでも身近にいい音楽を体感でき、楽しめるようなそんなまちづくりができたらなということで、本日貴重なお時間を頂きました。どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

○：　貴重なお話しをありがとうございました。また、文化などの話し合いの際にこのような音楽活動の話しも出てくると思われますので、その時にはまたお話しを伺いたいと思います。それでは、先ほどの続きで質疑応答を行いたいと思います。また司会の方、お願い致します。

６．質疑応答

司会：では、残り時間が少ないですが、質疑応答を始めましょう。先ほど手を上げていたお二人お願いします。

●：　最初の区のご説明の中で、先ほど質問された委員のご指摘に関係するのですが、どちらかというと、従来、皆さんが知っているようなヒストリカルな事が多くて、国際化とか未来志向の視点が欠けているような気がしました。皆さんもご存知でしょうが、いわゆる職安通りが今、韓国の飲食店がたくさんできて、一見コリアンタウンのような感じになっていて、ヨン様ブーム、韓流ブームでいろいろなところから人が集まってきて、５～６年前に比べてとても明るくて健康的なまちになったように感じます。先日、韓国と大久保の商店街の人、在日の方などでこれからの交流についてのシンポジウムがありまして、パネリストの一人が、コリアンタウンいわゆる排他的で韓国の人たちだけで集まっているのではなくて、地元の人達と交流できる場にしたいとの言葉が印象的でした。以前から、新宿には、在日の方たちもたくさんいらっしゃいますし、他の国々の方もいらっしゃいますので、もう少し、都市マスタープランについて、国際化、これからという視点を盛り込んでほしいなと思いました。今日、配られた資料は、少ししか見ていませんが、そのような印象をうけました。

○：　国際化は非常に重要な視点だと思っております。先ほどは時間がなくて説明できま

せんでしたが、「歩きたくなるまち新宿」の８ページをご覧頂きますと、３つの将来像のまず一つ目に「賑わい・交流のまち新宿」ということを位置づけております。その中身としましては、新宿の多様性を活かすまち、都市を楽しめるまち、多文化共生のまち、誰もがまちづくりに参加できるまちということで、今ご指摘のあった、多文化共生のまちづくりというものを取り上げております。よろしくお願い致します。

●：　このマスタープランというものと、私たちが今やっているこの話し合いとどういうふうに関わるのかなと思い、それと、基本構想というものもよくわからないのですが。また、今このマスタープランの中に出てきているいろんなことは、先週、私たちが宿題として出したものがもうまとめられているような気がします。それがどういうふうにつながっていくのか、そのあたりを説明して頂けたらと思います。

○：　前段の部分ですが、先週、少しこの件についてお話ししたかと思うのですが、今皆さんに基本構想、基本計画についての提言を話し合いいただいているのは、いわばソフトの部分のまちづくりになると思うのですけれど、都市マスタープランはハードの部分になると思います。都市マスタープランと基本構想、基本計画を分けて考えるのではなく、新宿区の２０年後の将来像を考えていただき、まとめたものを提言として提出していただきます。その中で、ハードのまちづくりに関わる部分は、都市マスタープランに取り入れさせていただくという位置づけです。グランドデザインは考えていただく素材としての位置づけで、参考にして下さい。よろしいでしょうか。

○：　では、他の方はいかがですか

●：　私のほうは、また別の機会に時間をいただきたいと思うのですが、新国立劇場は渋谷区ですが、境界は新宿区にのっていますし、オペラシティは新宿区側で活動していますが、そこから歌舞伎町まで新宿駅周辺地区、今度、協議会も立ち上がりましたが、そこを観光や文化の拠点、国際化とかいろいろな視点、特に文化ではこれからの発信基地だという視点を入れて、ぜひ皆さんで議論していきたいと思います。時間いただいた時には、今度、材料持ってきてお話しさせていただきます。

●：　新宿区都市マスタープランですが、第３分科会（まちづくり）でやると聞いていたのですが、この分厚い冊子を作るとなると大変なことだと思いました。先日、第３分科会に混じって四谷地域のまち歩きに参加したのですが、非常に狭いところもあり、坂道は多いし、階段もあるし、災害が起きた時など大変だと思いました。こういうところがあまりふれられていない。同じようにまちを見ていくといろいろところがあると思いました。代表的なことしか書いていないので少し心配になりました。もう一つは、この分科会は産業と文化と観光とをそれぞれまとめてやるのは結構なのですが、産業に関する行政、文化に関する行政、観光に関する行政という立場で議論しないと、いろいろなことがあり、焦点を少ししぼって議論をしたほうがまと

まりやすいのではないかと思います。２月に中間のまとめまでに、この調子でいくとまとまるのだろうかと少し心配になりました。

●：　商工観光課の方にお答えいただきたいのですが、一番気になっているのは、平成８年に都市マスタープランができ、事実、ハード面では川沿いに手すりや遊歩道できるなど着実に実行されていると思うのですが、実は一番の問題は、中井・落合は特に高齢化が激しい、いくらここで、施策を立てても、１０年後、人がいないところで何をするのかという疑問がまず生じます。また、外から来られる人と地元の人との認識度にずれがありすぎる。中井・落合で言えば、地元の人は猫地蔵のことは誰でも知っているが、染めの里二葉苑のことは知らない。商業ベースで人を呼んでおり、そこでアンケートを求め、それを結果で出されて、地元に知らせている。地元の文化を守っている、例えば、おとめ山の自然を守ろうとか、本来住民活動と一緒になっているものが取り上げられないで、商業的にピンポイントで扱われたものがその時だけ評価されてしまうということは、継続的なものとは決して言えないだろうという疑問の声が住んでいる人達から上がっています。やはり少子高齢化の中で、これから人口が減っていく、特に夜間人口が減っている中での、商工観光行政を考えていかないと、今ここで２０年３０年後のことを議論して、きれいなものを立ち上げても、実践の段階で人がいないところでいったい何をするのかという疑問をすごく感じています。だんだんこの会を重ねるごとに強くなりました。

○：　今のお話しに簡単にお答えするのは難しいと思います。ここ数年は新宿区の人口は増えて約３０万人ですが、長期的に見ますと日本全体で人口が減り始め、同時に高齢化は間違いなく進んでいきます。逆に言うと、今回、グランドデザイン「歩きたくなるまち新宿」というのも、いわば従前のように右肩上がりで人口も増えた、経済も大きくなった時代から、やはりそこに住んでいる人がより豊かさを感じるように、生きるためにはどうしたらよいか、そのひとつの提案がこの歩きたくなるまち新宿です。従来のような余暇の過ごし方、働き方、生活の仕方からもう一歩、ひと呼吸をおいて、ゆっくりあるきたくなるようなまち、そのためにはハードもあるし、ソフトもあるし、そういうまちを考えていこうということで、これから間違いなく人口は減っていきますが、その中でも新宿区にお住まいの方、訪れる方がゆっくりそのまちを楽しめる、リピーターが増える、住んでいる方にとっても楽しめる、そして自分のまちを誇りに思えるそのような形のまちにしていきたい。そのためにどのようなことを重ねていけばよいのか、一つの施策だけで解決することはありえません。また、都市の魅力も一つのものだけで代表できるものではありません。こういう形でいろいろな方からご提案ご意見を頂きながら、例えば、観光についても、歴史的なものがいい、もしくは近代的なものがいい、国際的なものがいいなどさまざまな魅力をそれぞれ皆さんがより認識するような形で組み合わせていくのがこれからの観光だと思います。それが最終的には地域の経済の活性化、地域のお住まい

の方々の誇り､アイデンティティーを高めることにつながっていくと思いますので、皆さんがお考えになり、それをまとめていき、さまざまな計画に反映させていくのがこれからの私たちに課せられた課題だと思います。

司会：いろいろな地域の話しがたくさん出て、さまざまな問題点があぶりだされつつあるのですが、今日は時間がないのでとりあえず次に進みたいと思います。ありがとうございました。

○：　司会の方、ありがとうございました。まだ、ご意見、ご感想がたくさんあると思いますが、今日はここで終わらせていただきます。先程の質問でもありましたが、中間のまとめに向けて、１１月から具体的な作業に入っていきたいと思います。本日のまとめと今後について廣江先生からお話しをいただきたいと思います。

７．まとめ

◎：　いろいろなお話しが出てきてたいへん良かったと思いますが、これからはまとめも皆さんのどなたかにやっていただけるとよいかと思います。ある方のご意見が非常にわかりやすくてよかったのですが、この分科会は、今日、お話しを伺ったようなマスタープランだとか、グランドデザインだとかいろいろある。行政がそういう考え方に従って、また、国や都との関係の中で、新宿区は何をするかという計画をやっている。それに対して、つまり、行政に対して、この分科会の領域の中で、こうあるべきだと意見書を出そうというふうに考えていただければわかりやすいと思います。その時に、考えていかなければならないのは、これがない、あれがないということがあります。区民の側から見るわけですから、それをどう埋めていこうかという作業は前回もやっていただきましたし、来週に向けて、提出いただいた素材シートをまとめて、これだけ区民の側から見るといろいろな資源があるということを出していきます。そういうものを材料にしながら、これから議論を深めていきたい。まだまだこういうところを見るべきだというものはたくさんある。そういうものを皆さんから出していただきたい。産業で何なのか、文化で何なのか、観光で何なのかを出していきたい。それを次回から具体的にやっていきたいと思います。もうひとつ重要なのは、行政施策に対して、区民の側から意見を言っていき、理由をつけてまとめて、区民全体が納得できるようなものをこの分科会から出していこうと思います。そのためには、大きな基本的な考え方も重要になってきます。また、他の方がおっしゃったことはすごく大切だと思います。私自身も何で東京は都電を捨てたのかとずっと思っています。あの時代から車社会が走っていくわけです。やっぱりおかしいという考え方もあります。車が前提になって、都市計画を作ってきたけれども本当にこれが必要かどうかというと違った発想もあるかもしれない。でも車が必要というのはもし不便になった場合に住民が困る。それはどうした方がいいか

は区民が決めていくことになるかもしれません。その作業をこれからやっていくので、細かい話しと同時に大きな柱をどう考えていくのかがすごく大切になります。その際、今日、どなたかから出た国際的な視点とか未来志向がないとかの話しがありましたが、それはどんどんこの分科会で取り入れていけばよいと思います。例えばの話、職安通りが韓国の人々が多くなったり、あるいは今まではうもれていた人たちがどんどん表にでてくるという中で、誰が一番嫌がるかというと場合によっては地域の商店街の人かもしれない。そういうものを文化という側面からどうすればもっと共生できるようになるのかというこの分科会から提案があってもいいと思います。その時に、例えば、図書館活動を通じて、どうやったらいろいろな国の人たちと仲良くなれるのかという時に、日本語だけでなくてもっといろいろな国の言葉を集めたり、交流したりして、交流拠点として図書館があってもいいのではないかと思います。今まで皆さんがやってこられた中からもう少し大きな問題に対してどういうことをやっていこうかと考えていただければいいと思います。また、今の商業がどういう局面にあるのかどうしてそれを守らなければいけないのかという説得材料を出していきたいと思います。そういう作業にこれからなります。神楽坂の話しでも、あそこは坂があって狭いです。狭いと交通量が制限されますし、事実上、一車線になっていますから、平気で道路を渡れるわけです。本来、商店街はそういう機能をもっていたはずでしたが、道路を拡幅してきたら商店街としての機能は変わってしまいます。変わったことを是とすればどういう新しい商店街づくりが必要になってきますし、道路を広くしたことが間違いであればどうするか考え直す必要があるかもしれません。そういう点でいうと、大きな原則を議論しながら、細かい部分をよく見て、どのように新宿区がよくなるために区に対して、具体的な提案、意見書を出していくのかというまとめ方をこれからする必要があります。素材シートで細かいものを拾いながら、それを整理して、たえず返して、うめていく作業をしていきたい。必要なのは、文化、産業、観光と共通する部分と違う部分があります。その両方をうまく合わせながら、グループをつくって来週から議論していきたい。今日のお話しからはそんな具体的な方向がはっきり見えてきたかなと思いました。以上です。

８．事務連絡

○：　＊次回以降の日程について

・１１月７日（月）１９時～２１時　新宿区役所 第一分庁舎 7階 研修室
・１１月２５日（金）１９時～２１時　新宿区役所 第一分庁舎 7階 研修室
・１２月５日（月）１９時～２１時　新宿区役所 第二分庁舎 2階 2－①会議室
・１２月１５日（木）１９時～２１時　新宿区役所 第一分庁舎 7階 研修室

※１１月２５日だけ場所が変わりますので注意して下さい。

＊第５回新宿まちづくり学講座

１１月２８日（月）午後６時～午後８時５０分

場所は早稲田大学総合学術研究センター（国際会議場）３階です。

＊テーマは「地域産業と観光」

産業については廣江先生にお話しいただきます。第５分科会に直接、関わる内容ですのでぜひ皆さんご参加下さい。

◎：　ちょっと言い忘れました。次回への提案ですが、今日、これだけ説明していただきましたので、グランドデザイン、マスタープラン、観光関連調査を各自、きちんと読んできて、各グループの中で話していただくようにしたらどうかと思います。ご提案です。司会の方、お願い致します。

司会：先生のご提案に対して何かご意見ある人はいますか？

●：　２時間の会議の中で、ようやく何か見えてきたかなというところで時間がなくなり終わってしまう。何か消化不良のままずっと経過している気がします。もう１時間延長すれば、もう少しわかりあえるのではないかと思います。そのあたりの調整の方法とかはないのですか。

○：　特に今日は時間が足りなくて、皆さん言い足りなかった部分があったかと思います。今のご意見のとおり、最近、お話しする時間が少なかったので、次回以降はグループワークでお話しする時間を多くとりたいと思います。そこで、皆さんいろいろ話し合っていただければと思います。また、それについて、ご意見などがあれば、今後も、皆さんで話し合っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

司会：他に意見のある方はいますか。特になければ、マスタープラン、グランドデザインについて、皆さん読んでいただいて、意見交換を次回やっていきたいと思います。

○：　素材シートについて、まだ提出していない方はファックスでも郵送でも構いませんので、まだ提出していない方はなるべくお早めにご提出お願い致します。

以上